

東北地方 1か月予報

(7月5日から8月4日までの天候見通し)

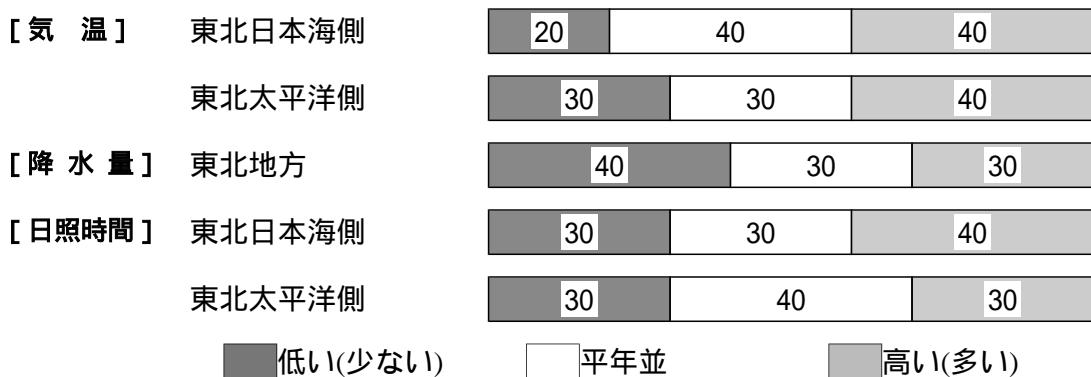
平成20年7月4日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

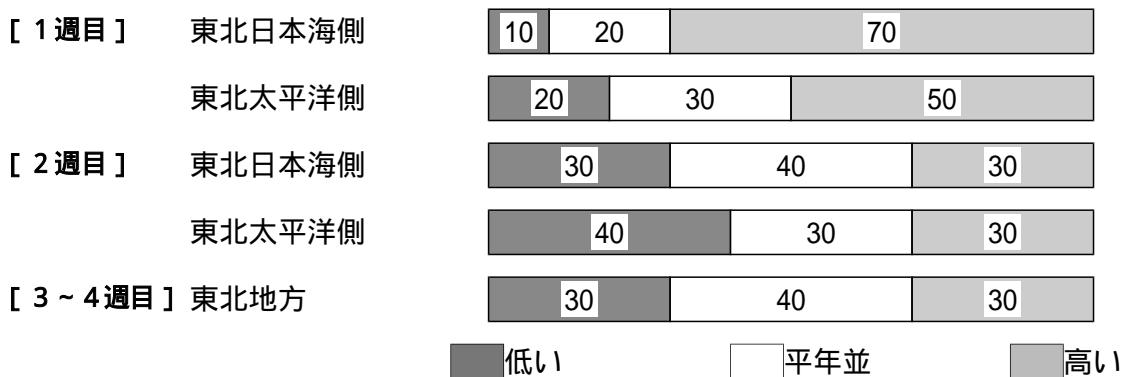
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、東北日本海側で平年並または高い確率がともに40%です。
週別の気温は、1週目は東北日本海側で高い確率が70%、東北太平洋側で高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 7月 5日(土) ~ 8月 4日(月)
1週目 : 7月 5日(土) ~ 7月 11日(金)
2週目 : 7月 12日(土) ~ 7月 18日(金)
3~4週目 : 7月 19日(土) ~ 8月 1日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は7月11日
3か月予報: 7月24日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	21.7	106.3	182.0	19.7	20.7	22.7
深浦	21.8	150.2	182.0	20.0	21.0	22.8
むつ	20.2	120.6	155.6	18.2	19.2	21.1
八戸	20.8	114.4	172.2	18.8	19.8	21.9
秋田	23.2	176.5	177.0	21.4	22.3	24.2
盛岡	22.2	168.7	148.6	20.5	21.4	23.2
大船渡	21.5	162.4	154.6	19.8	20.6	22.4
宮古	20.5	138.4	153.1	18.7	19.6	21.5
仙台	22.6	157.6	135.2	20.7	21.6	23.5
石巻	21.9	125.8	154.7	20.1	21.0	22.8
山形	23.7	144.2	162.3	22.0	22.8	24.7
新庄	22.8	184.0	160.8	21.1	21.9	23.7
酒田	23.6	182.3	188.4	21.8	22.7	24.7
福島	24.0	143.7	141.1	22.3	23.1	25.0
若松	23.8	157.1	176.8	22.2	23.1	24.7
白河	22.4	190.6	137.6	20.9	21.7	23.2
小名浜	22.1	121.3	162.9	20.6	21.4	22.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3 ~ +0.6	82 ~ 115	93 ~ 109
東北日本海側	-0.3 ~ +0.5	81 ~ 118	90 ~ 109
東北太平洋側	-0.3 ~ +0.8	78 ~ 116	92 ~ 114

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8 ~ +0.6	-0.9 ~ +0.9	-0.4 ~ +1.0
東北日本海側	-0.6 ~ +0.5	-0.8 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.8
東北太平洋側	-0.9 ~ +0.7	-0.9 ~ +1.0	-0.4 ~ +1.0

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成20年7月4日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月5日~8月4日):

東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は東北日本海側で平年並または高い確率とともに40%、東北太平洋側では各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(7月5日~7月11日):

気圧の谷の影響で曇りの日が多く、期間のはじめは雨の降る日があるでしょう。

平均気温は東北日本海側で高い確率が70%、東北太平洋側で高い確率が50%です。

2週目(7月12日~7月18日):

前線や気圧の谷の影響を受けて、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3~4週目(7月19日~8月1日):

東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

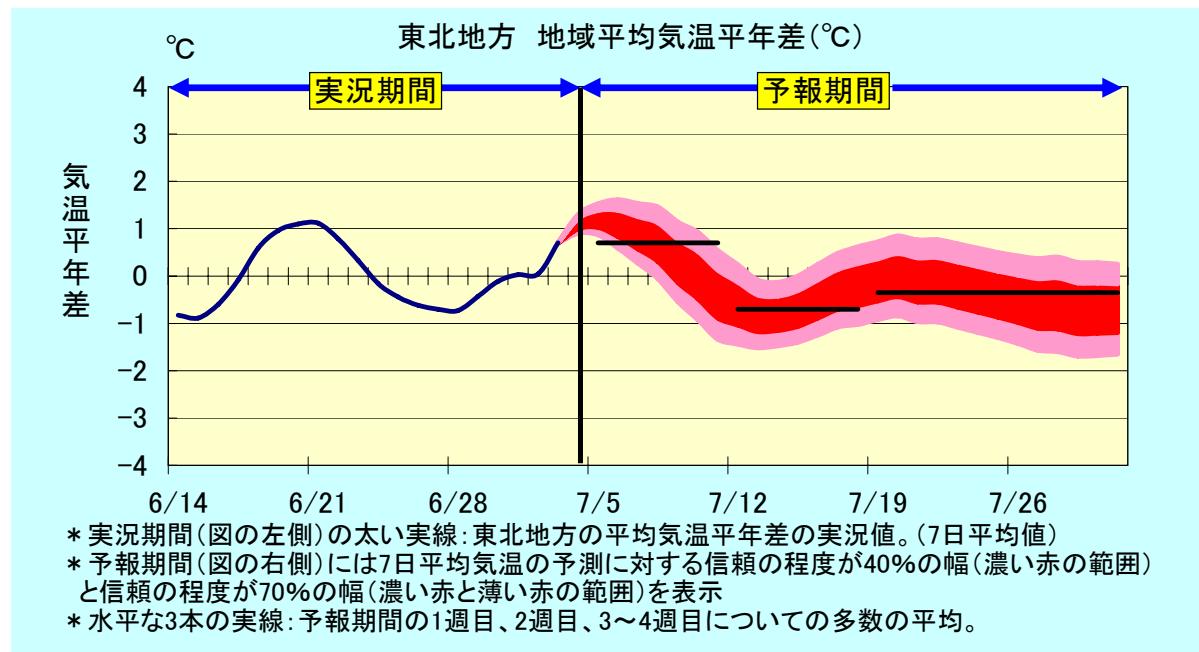
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	13.3日	2.6日	2.8日	7.9日
東北太平洋側	11.6日	2.3日	2.4日	6.9日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

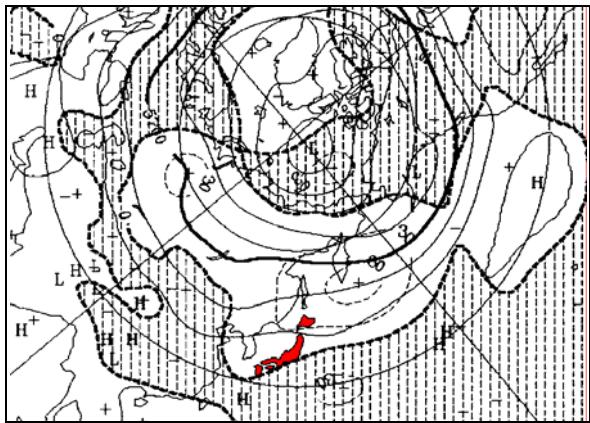
数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を上回り、2週目は平年を下回り、3~4週目は平年をやや下回る予想となっている。予報は、その他の資料から期間を通してやや高めに考える。



3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近はカムチャツカ半島付近を中心とする正偏差におおわる。また、日本の南東海上は負偏差であるため、太平洋側は東風の影響を受ける時期もある。気温は日本海側を中心に高めが予想される。なお、地上天気図(図略)では東北地方の降水量は少ない。

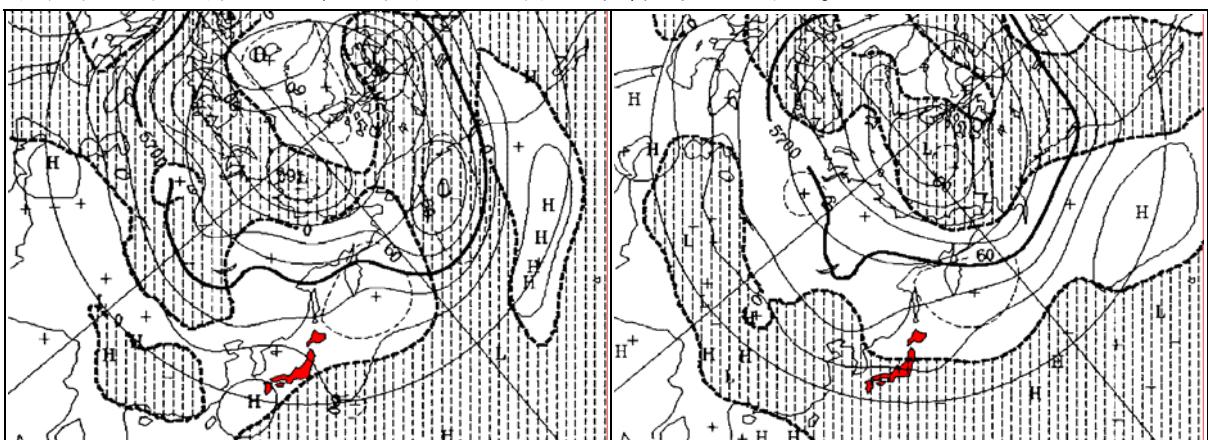
1週目: 亜熱帯高気圧が北に張り出し日本付近は正偏差で、気温は高めが予想される。日本の南東海上に低圧部があるため、太平洋側は一時東風の影響を受ける見込み。なお、地上天気図(図略)では梅雨前線は不明瞭となる。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)

2週目: 西シベリアから太平洋上までの高緯度帶は広く正偏差。カスピ海から太平洋上の日付変更線付近までの中緯度帶は帶状に負偏差。日本の南東海上に低圧部があり、太平洋側では東風の影響を受けやすい。



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

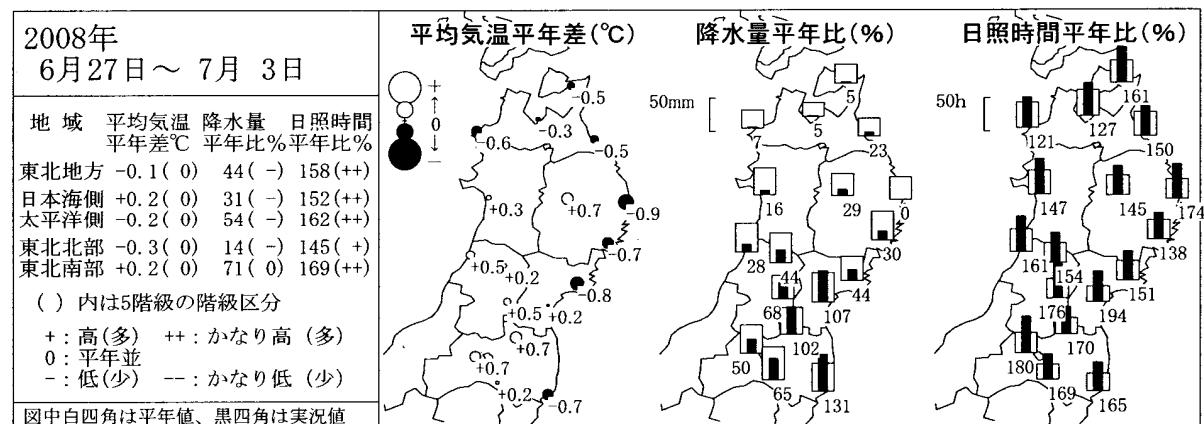
実線は、等高度線（間隔60m）、点線は、平年差（間隔60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (6月27日～7月3日) の天候の経過

この期間、高気圧におおわれて晴れの日が多かった。29日は本州南岸の梅雨前線上の低気圧の影響により、東北南部を中心に雨となり、30日には東北北部沿岸部では冷たく湿った東風の影響を受けて八戸や宮古では平均気温が平年を5度以上下回ったが、低温は一時的であった。また、3日は気圧の谷の影響により東北地方は雨となった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)